

小田急多摩線の愛川・厚木方面への延伸に向けて取り組んでいます

（「小田急多摩線の延伸促進に関する連絡会」の取組状況報告）

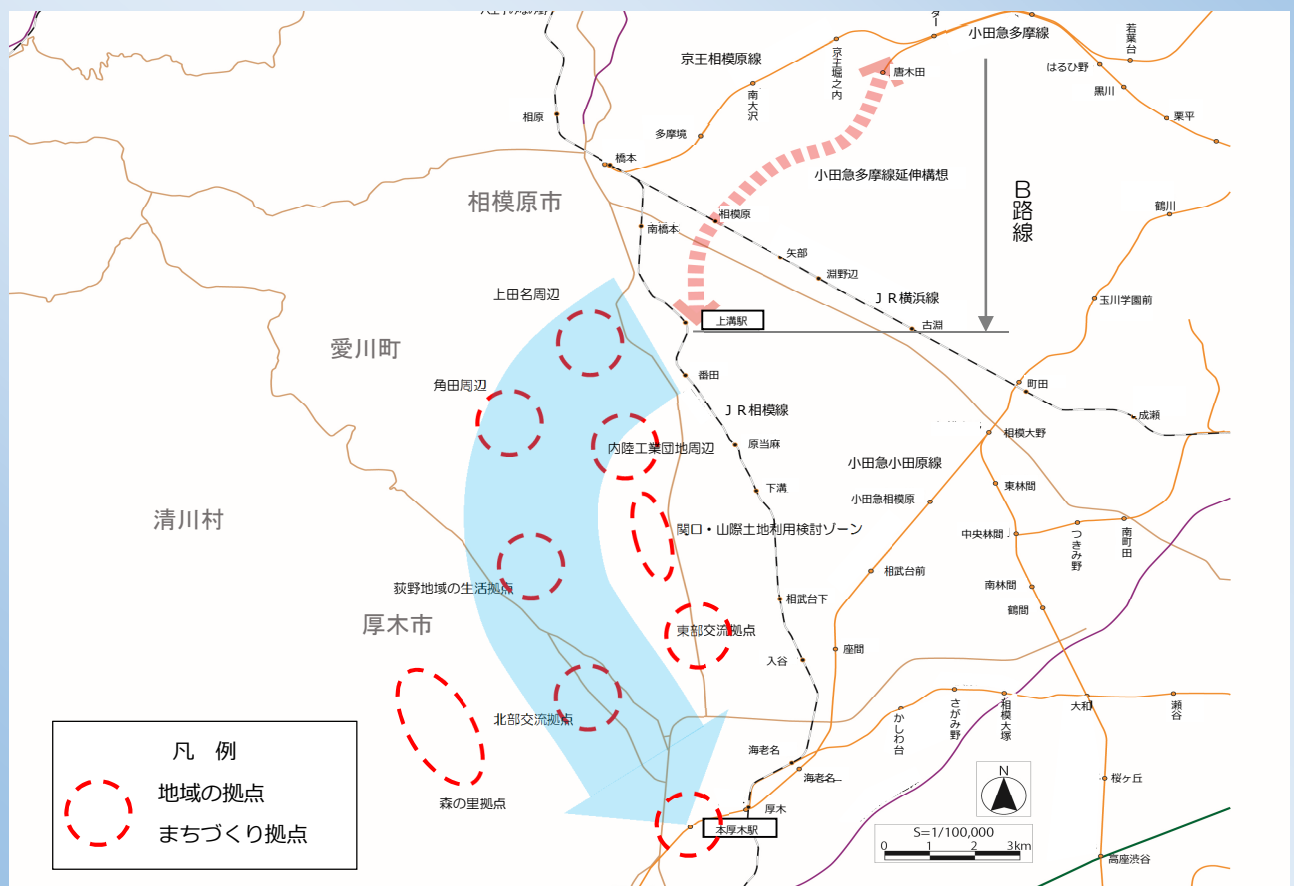
小田急多摩線の延伸については、平成 12 年 1 月の運輸政策審議会（現在の交通政策審議会）答申第 18 号において、「唐木田駅から J R 横浜線・J R 相模線方面への延伸について、今後整備について検討すべき路線（B 路線）」に位置付けられています。

この答申第 18 号に基づく区間の延伸については、平成 18 年度から「小田急多摩線延伸検討会（町田市、相模原市、鉄道事業者等）」において、J R 相模線上溝駅までの検討を進めています。

さらに、上溝駅から田名地区を経由し、愛川・厚木方面への延伸については、平成 21 年 7 月から「小田急多摩線の延伸促進に関する連絡会（相模原市、厚木市、愛川町、清川村）」を設置し、平成 27 年度に予定される交通政策審議会答申への位置付けに向けて、延伸に関する基礎資料の整備に取り組んでいます。

【検討ルートについて】

延伸の実現に向けては、地域のまちづくりなど、将来像のポテンシャルを踏まえた長期的な展望に立った視点が重要となることから、上溝駅を基点に、地域の主要拠点や将来のまちづくり拠点などを考慮して、本厚木駅方面に延伸するルートについて、次期答申に位置付けられるよう、検討の深度化を図っていくこととしました。



【路線の意義・必要性】

《意義》 持続可能な地域社会の確立と市民生活の質の向上

《必要性》

視点1 地域の交通課題への対応

- ・ 鉄道空白地帯を解消し、移動の速達性・定時性を確保することで生活利便性を向上
- ・ 鉄道を中心とした公共交通ネットワークの拡充による持続可能な社会の構築
- ・ 首都圏鉄道網との接続で鉄道経路選択自由度を高め、利便性・信頼性を向上

視点2 地域の目標とする将来都市像への誘導と都市構造の形成

- ・ 交通軸に沿った集約型まちづくりの促進
- ・ 既存中心市街地の拠点性向上による活性化
- ・ 地区拠点の形成による地域全体のバランスある発展

視点3 神奈川県・首都圏の各都市との連携強化

- ・首都圏レベルの広域交通ネットワークの形成による都市連携強化

【期待される整備効果】

- ・移動時間の短縮
- ・移動費用の縮減
- ・乗換環境の向上
- ・まちの賑わいの創出（まちづくり）
- ・移動の安全性向上（自動車事故の減少など）
- ・代替経路確保の可能性

(県央地域と都心方面との幹線アクセス路線の充実)

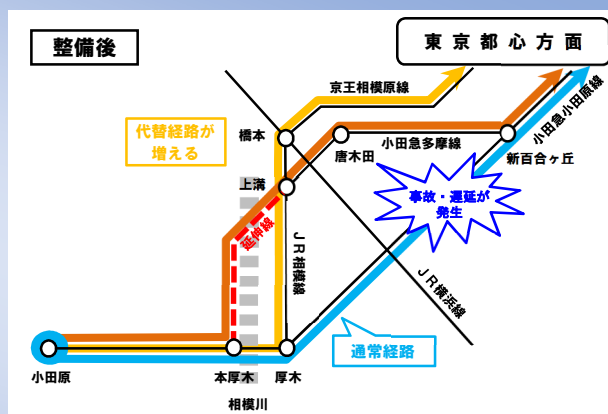


図 代替経路確保イメージ

【今後の検討課題】

鉄道網がない地域では、自動車による環境への負荷を可能な限り少なくしながら、活気にあふれ、誰もが快適かつ質の高い生活を送れるような持続性のある都市構造や交通体系を構築することが重要です。

このためには、小田急多摩線の愛川・厚木方面への延伸が重要な役割を果たすと考えていますが、人口減少社会の進展や事業性の観点からは、課題は大きいものとなっていることから、今後、延伸の実現に向けて、「需要の確保」、「事業費の圧縮」、「沿線まちづくりの検討」、「関係者との調整」といった課題の解決に取り組んでいきます。